



# 家畜保健衛生所たより

山梨県西部家畜保健衛生所

(平成21年度 第6号)

## 豚の飼育施設における防蚊対策について

### 日本脳炎とは、

日本脳炎ウイルスによって起こる人畜共通感染症です。蚊が媒介（豚 ヒト）します。

**豚**では免疫のない妊娠豚が感染すると死産・流産・黒子等の異常産が起こり、種雄豚では造精機能障害が起こります。

**ヒト**では感染してもほとんどは無症状ですが、脳炎を発症した場合の死亡率は20～40%に至ると言われています。

日本脳炎ウイルスは豚の体内で増殖し、蚊を媒介してヒトに感染することが知られており、ヒトの日本脳炎予防においても豚の防蚊対策が重要です。今年も流行時期を迎えている中、防蚊対策の徹底をお願いします。

### 具体的な対策として・・・

豚が蚊に刺されない環境作りについて

媒介蚊（コガタアカイエカ）との接触を避けるため、豚舎内での飼育に努めましょう。

豚舎内の蚊の駆除について

豚舎内の蚊を駆除するために、豚舎内の壁面や防鳥ネット等への定期的な薬剤（ピレスロイド系）の散布等に努めましょう。

確実な日本脳炎ワクチン接種について

繁殖豚（特に初産・種雄豚）への日本脳炎ワクチン接種を徹底しましょう。

蚊の活動によってウイルスの伝搬する時期の少なくとも1ヶ月前に接種を終了すること（3月～6月）が大切です。

### （参考）

- ・コガタアカイエカは、小さな水たまりではなく、水田や沼地に生息します。
- ・蚊は、吸血すると、その後壁面に留まり休息する性質があるため、豚舎内の壁面や防鳥ネット等への薬剤の散布が効果的です。
- ・有機リン系の殺虫剤では、コガタアカイエカに耐性が生じることが認められているため、ピレスロイド系の薬剤を使用する必要があります。
- ・豚舎にライトトラップ（ブラックライトの蛍光管）を設置し、蚊の駆除を行うことも豚から吸血する蚊の数を減少させる効果が期待できます。

